

あけぼの会奨励賞

「お母さんが乳がんになったとき」 川中 菜奈江（かわなか・ななえ）

20歳／大学生／愛知県

私がたくさんお世話になったあなたの左胸が無くなり、それが大きな傷跡に変わってから、もう12年が経ったね。当時まだ幼かった私は、あなたの抱えていた苦しさを、全然わかってあげられていなくて本当にごめんね。

死の淵に立たされたことへの絶望。闘病の苦しさ。精神的な負担。言葉では言い表せないほど辛いことがたくさんあったのだと思う。

あなたのがんは発見当時すでにステージ3まで進行していたけれど、奇跡的に手術は成功。本当に、奇跡としか言いようがないね。あなたはまだ死ぬべきではない、と神様が生かしたのかもしれないし、あなたの精神力の強さが癌に打ち勝ったのかもしれない。けれど、あなたのがんの原因を作ったのは、もしかすると私たちだったのかもしれない、と私は今更どうしようもできない過去を時々振り返ります。3人の幼い子供をかかえ子育てと仕事に忙しく生きる日々の中で、長女が難病であるモヤモヤ病にかかりその看病にも追われ、あなたは自分の時間なんてこれっぽっちもなかったのでしょうか？検診へ行く時間もなく、左胸に大きなしこりがあることをはっきりと確認してから、急いで病院へ行ったんだね。自分を見つめることができないとき、それが「乳がん年齢」なのだ、とあなたを見てつくづく実感したよ。

術後3年...5年...とあっという間に月日は流れていったけれど、ずっと再発に怯える日々を過ごしてきたのでしょうか？あなたは気丈で強がりだから、あまり弱いところを表には出さなかったよね。けれど、10年目の検診をクリアしたときのあの涙、私は一生忘れられません。

私から見たあなたはとてもかっこよくて、完璧で、何事にも全力。今は病気になったことが嘘みたいに昔のような生活をしているけれど、いつも不安はどこかにあるよね。私は微力だけど、ずっとあなたの娘として支えていくから、安心してね。ずっとそばにいるから。

あなたのおかげで、私は今年成人を迎えることができました。あなたは乳がんになったとき、せめて私が大人になるまでは生きていたい、なんてことを言っていたよね。けれど、あなたの存在は私たち家族にとって、とてもとても大きなものなんだよ。今までも、これからもずっと。

生きていてくれてありがとう、お母さん。